

活動報告

団体名	特定非営利活動法人オペレーション・プレッシング・ジャパン
活動名	福島県沖地震の宮城県山元町被災者のための生活復旧支援活動
活動期間	2021/04/01～2021/05/11
活動の成果	<p>高齢化率 4 割という事実が災害時にどのような影響を及ぼすかを目の当たりにすることとなった。発災から断水が続く場合、高齢一人暮らしでは移動手段がないため町の給水所まで行くことができない。水不足のため、炊事・洗濯・トイレ・お風呂・掃除・衛生確保に困難が見られた。水道が復旧しても赤い水で、しかたなくその水で炊飯する人もいた余震も数日おきに発生する地震災害において高齢者への支援体制は、家屋の補修をおこなえばそれで終わるのではなく、生活が復旧するまで定期的に訪問し、急速に変化する高齢者の生活環境に目を配る必要がある。2019 年の災害支援から研究を続けてきたが、実際の災害支援初動から体制を組んで入ったのは初めてで理論を正しく確認することができた。特に独居高齢者は新型コロナの影響で家族との交流も憚られるため孤立化が際立つ。誰かにいつでも SOS を出せる状態なのか、誰かに頼っていいと思える心や精神の状態なのかは被災後の生活の回復が速やかに進むか、悪化してしまうのかに深く関係しているので高齢者におきる災害の影響と支援の方法について示唆がえられた。特に非常事態での高齢者ケアは日常とは違うということを経験した。地域の福祉関係者と認識を改め、災害支援団体との協力体制を築くきっかけにしたい。小さな支援活動であっても、住民さんが望む内容であれば、表情が明るくなり前向きな言葉が出て、レジリエンスを高める事が出来た。支援者としても、嬉しくやりがいになる。今後の日本の災害支援現場でこの経験が活かせると思う。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>福島沖地震で被災された方々のためご寄付いただき心より感謝申し上げます。私たちが支援に入ったのは東日本大震災でも被災した宮城県亘理郡山元町。今回の支援で私たちは「高齢のため自助が難しい」「コロナで子供が来れないため、農家で家も点在するため共助が難しい」「公助を求めたくとも情報へのアクセスが難しい」といった高齢化と新型コロナという 2 重 3 重の困難の中での災害支援の現実を体験しました。当団体は災害支援において片づけや補修などの作業をおこなうだけでなく被災された方々の生活を守るための福祉的視点「生活モデル」をとり入れた支援「ソーシャルワーク支援」を掲げ現場にあたっています。「共助」ができる地域は災害に強いと言われます。少子高齢化に予測のつかない事態がおこりえる時代に向け公助だけでは支援できない分野に手を伸ばす、声をあげない人・あげられない人に手を伸ばす支援活動を続けてまいります。これからも私たちのような支援団体へのご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます</p>

(活動のようす)

